

■採択年度（タイプ・申請区分）※該当の口を■にしてください。／大学名

【ASEAN 対象】 ■H23 (A-Ⅱ) □H24 (Ⅰ) □H24 (Ⅱ) 【AIMS】 □H25／ 京都大学

■プログラム名

強靱な国づくりを担う国際人育成のための中核拠点の形成－災害復興の経験を踏まえて－

■相手大学・機関（国名も記載ください）

バンドン工科大学（インドネシア）、アジア工科大学（タイ）、チュラロンコン大学（タイ）、カセサート大学（タイ）、ベトナム国家大学ハノイ（ベトナム）、マラヤ大学（マレーシア）

■主な活動内容（概要）

【学生の相互交流（国際協働教育履修コース）】

ASEAN 3ヶ国5大学から各3名計15名の学生を4週間受入れるとともに、京都大学学生15名をASEANの大学に4週間派遣して学生の双方向交流を実施。

平成26年度はインドネシア・バンドン工科大学へ派遣予定。

平成24年度・25年度はタイ・カセサート大学に派遣した。

【教員の相互交流（コラボレーション講義）】

ASEAN 3ヶ国5大学から若手教員を受け入れ、また京都大学からASEANの大学に派遣して教員の相互交流（コラボレーション講義）を実施。

【FDシンポジウム】

協働教育プログラムの改善・質の向上を図るためASEAN 4ヶ国6大学から教員を招聘し、FDシンポジウムを開催（平成24年度はバンコク、25年度は京都で開催した。）

■プログラムの現状・課題、成功事例

（単位互換、危機管理、寮・奨学金、その他プログラムをつくる上での障害等について、できるだけ具体的に記載ください）

現状・課題

特になし。

成功事例

【On the Research Training (ORT)】

履修コースの特色として災害現場に向くORT演習を重視しており、24年度・25年度の現場実習（日本・タイ）に参加したほぼ全員から貴重な体験ができ、非常に有意義であった感想が得られた。

【ASEAN履修生が京都大学大学院工学研究科博士課程に入学】

24年度にタイのアジア工科大学から受け入れた履修生で修士課程の学生1名が25年度の入学試験に合格し、社会基盤工学専攻に入学した。

【台湾成功大学（部局間学術交流協定校）が履修コースへ新たに参加】

アジア諸国への情報発信の結果として、台湾成功大学から26年度履修コースに参加したい要望があり、経費は同大学が負担して派遣される学生3名を4週間受け入れる。